

大野川

豊かな自然と文化を受け継ぎ 安全で安心して
心の豊かさを育む大野川を未来に継承します

ŌNOGAWA

河川整備計画(変更原案)

【大臣管理区間】 概要版



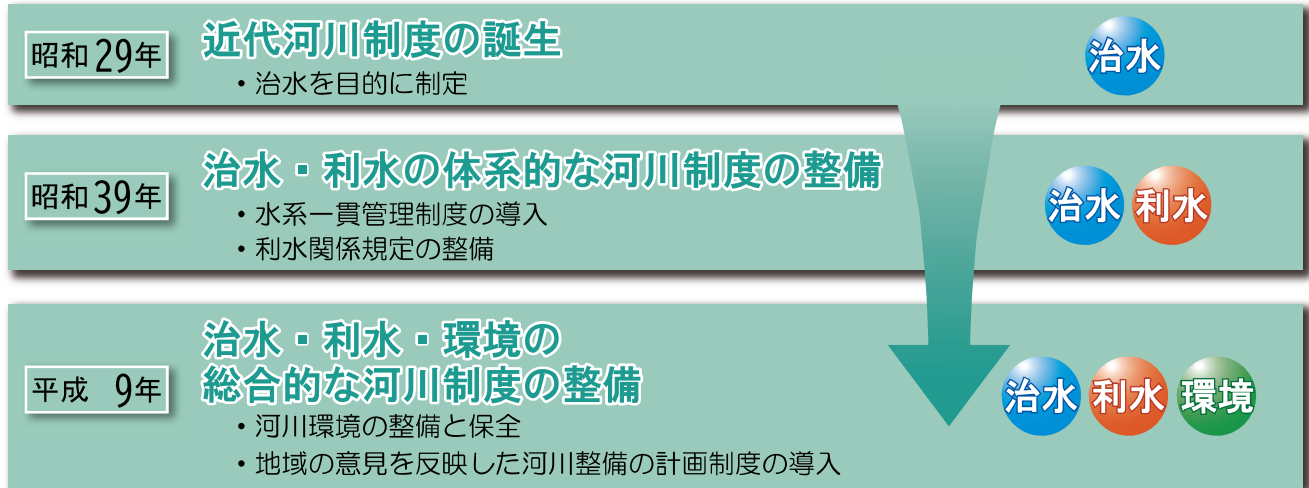
国土交通省 大分河川国道事務所

はじめに

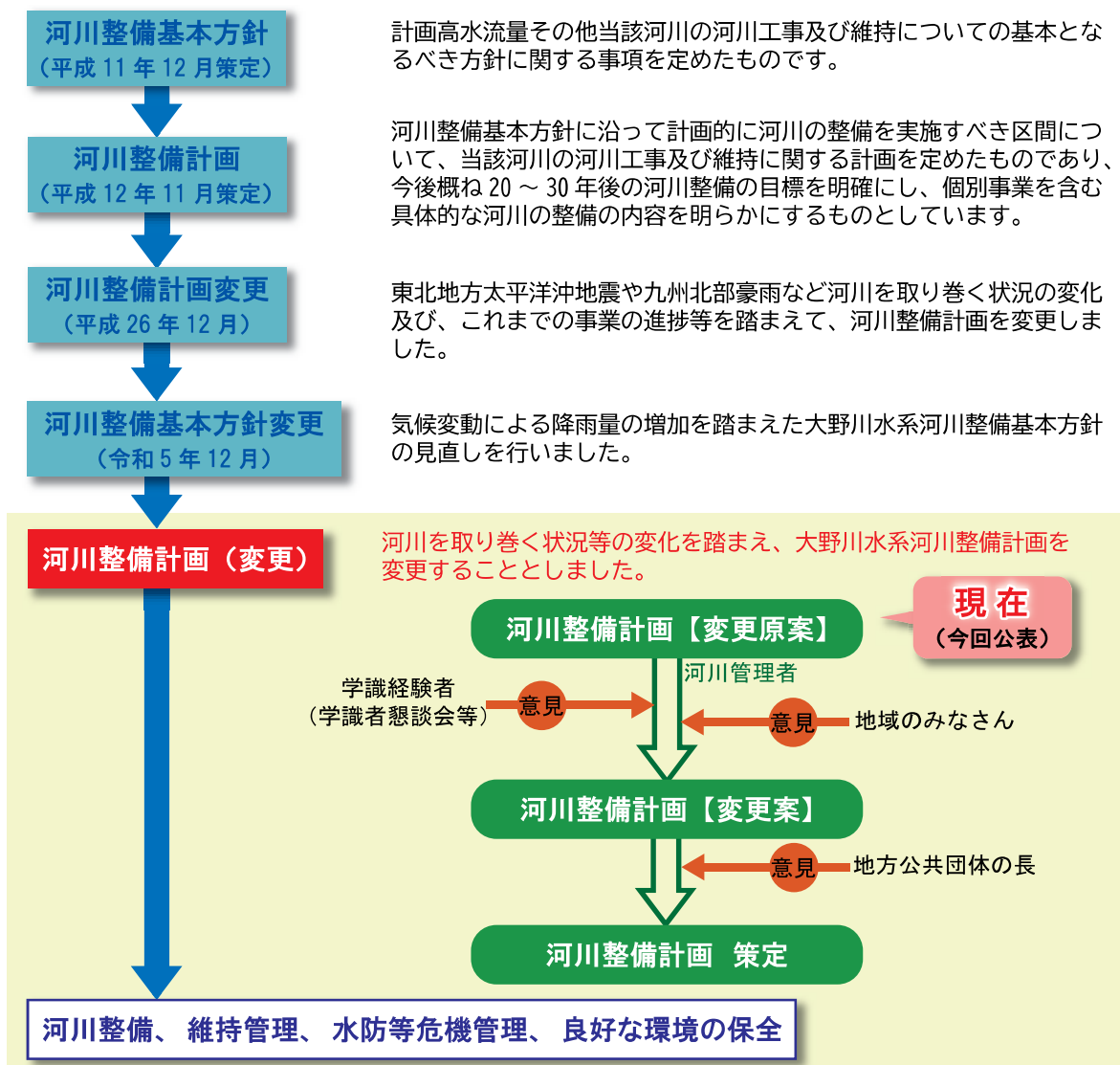
◆河川整備計画とは…

河川整備計画とは、「河川法」に基づいて、治水・利水・環境の3つを柱に、地域の意見を反映した上で、今後概ね20～30年間の具体的な河川整備の目標及びその内容を定めるものです。

■河川法改正と目的変更



■大野川水系河川整備計画策定までの流れ



◆基本理念

基本理念

- 大分県の中央部を流れる母なる川「大野川」
- 九州の名山「祖母山」「傾山」「阿蘇山」「久住山」から発し、大地を潤し、産業を支え、人々の暮らしにかかせない豊かな水
 - 湧水群、大小の滝、石橋群が織りなす景勝地
 - 多様な生物を育む清流と緑豊かな自然環境
 - 都市部において貴重な憩いの場を提供する広大なオープンスペース
 - 過去から洪水氾濫を繰り返し、ひとたび氾濫すると壊滅的な被害をもたらす恐れのある危険な川

**このような豊かな自然と文化を受け継ぎ
安全で安心して心の豊かさを育む大野川を、未来に継承します**

川づくり基本方針

安全で安心して暮らせる川づくり

治水の整備目標に対する施設整備を推進すると同時に、計画規模を上回る洪水等に対しても、被害を最小限に抑えるための防災体制の充実を進めていきます。

清らかな水と健全な水循環に向けた川づくり

安定的な水の供給を図るとともに、流域全体で一体となって健全な水循環系の保全を図ります。

自然や生物と共生し、新たな文化の創造と地域と一体となった川づくり

様々な生物にとって棲みやすい自然に近い川づくりや川にまつわる歴史や文化が継承される川の整備を行うとともに、まちおこしや地域づくりと一体となった川づくりを進めていきます。

地域・住民との連携

本計画の対象区間は『大野川水系の大臣管理区間』とし、対象期間は『概ね 30 年』とします。

◆大野川水系河川整備計画の変更要点

変更に至った背景

- 令和 5 年 12 月に河川整備基本方針を変更し、新たな方針に沿った整備計画の策定が必要になりました。
- また、現行河川整備計画（H12 策定、H26 変更）の対応が概ね完了しましたが、平成 29 年 9 月 17 日洪水（白滝橋流量観測所にて観測史上最大流量を記録）など、近年において大きな洪水が発生している点を踏まえると、更なる治水安全度を向上させるべく、必要となる河川整備を加速していく必要があることから、今回、河川整備計画の変更を実施します。

整備計画変更のポイント

① 更なる安全度向上のための変更

- 整備期間
- 整備目標
- 整備内容

③ その他の事項による修正

- 現行計画に記載している統計データの時点修正
- 整備の進捗状況に合わせた記載内容の時点修正

② 法律改正及び答申等を踏まえた変更

- 更なる良好な河川環境の整備と保全に向けた記載を追加
- 「気候変動への適応」「流域治水」に関する記載を追加
- 「水防災意識社会再構築」に関する記載を追加
- 「事前放流」に関する記載を追加
- 「総合土砂管理」に関する記載を追加

大野川の概要

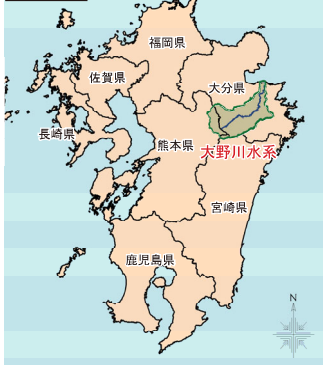
◆大野川流域について

■県内最大の河川・大野川

大野川は、その源を宮崎県西臼杵郡高千穂町祖母山に発し、竹田盆地を貫流し、緒方川、奥岳川等を合わせて中流峡谷部を流下し、大分市戸次において大分平野に出て、さらに判田川等を合わせ、大分市大津留において乙津川に分派し、別府湾に注ぐ、幹川流路延長 107 km、流域面積 1,465km² の一級河川です。

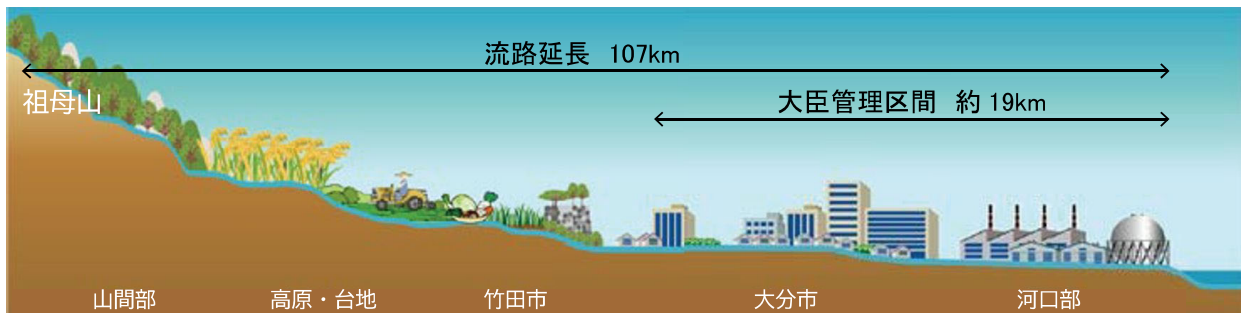
- 水源：宮崎県西臼杵郡高千穂町祖母山（標高 1,756m）
- 流域面積：1,465km²
- 幹川流路延長：107km
- 流域内市町村：5市3町1村
大分市、臼杵市、豊後大野市、竹田市、阿蘇市、南小国町、高森町、高千穂町、産山村
- 流域内人口：約 21 万人
- 想定氾濫区域内人口：約 8 万人

位置図



■険しい山々に囲まれた盆地状の地形

流域の大半を山地が占めており、上流で降った雨が下流の限られた平野部へ一気に流れていきます。



大野川の縦断的な河川形態（イメージ）

■原生林の残る自然の宝庫

大野川の源流部にあたる祖母傾山系の一部は西日本の山地において有数の原始的な自然林が残っている地域の一つであり、その他にも自然に恵まれた地域が数多く存在しています。当該地域は、この自然環境の保全のため、自然公園（阿蘇くじゅう国立公園・祖母傾国定公園・祖母傾県立自然公園・神角寺芹川県立自然公園）に指定されています。



九重連山

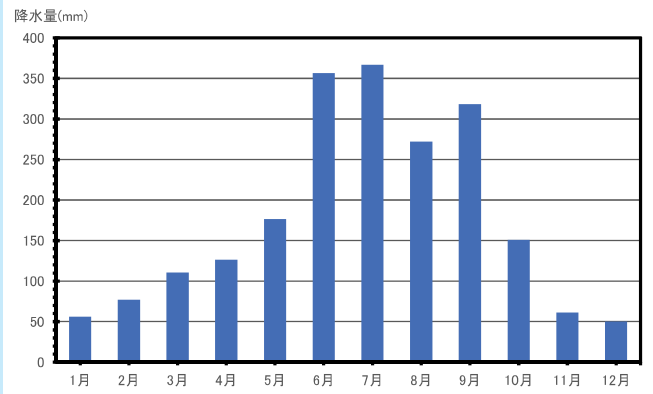
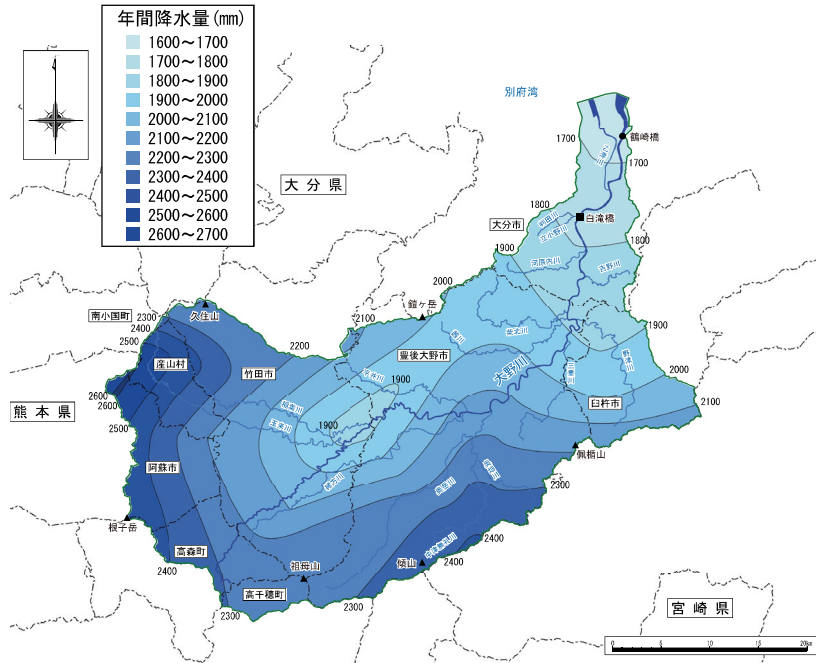


傾山

3種類の気候区分があり、夏の大雨が多い地域

大野川流域の上流は山地型気候区、中下流は内海型及び南海型気候区に属しています。山地型気候区は九州中央部の山地が大分県に迫っている地域で標高 300m、400m 以上の山地のため気温が低く降水量が多いのが特徴です。

また、内海型及び南海型気候区は冬の気温が高く降水量が多いのが特徴です。流域の平均年間降水量は、流域全体として約 2,100mm であり、台風性の降雨並びに梅雨性の降雨が多くなっています。



大野川流域の月別降水量

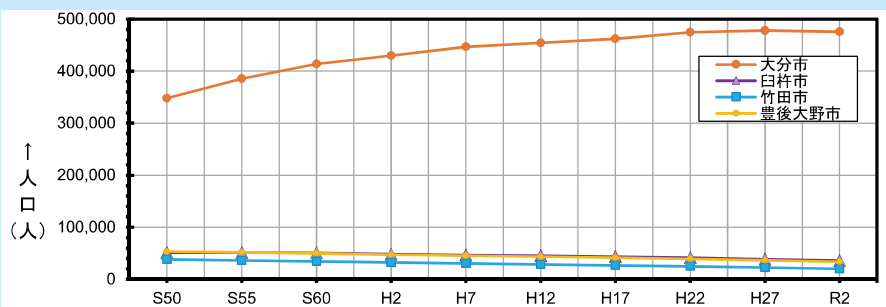
【平成 26 年（2014 年）～令和 5 年（2023 年）】

（出典：国土交通省管轄の雨量観測所（12ヶ所）の流域平均降水量）

年間降水量分布図【平成 26 年（2014 年）～令和 5 年（2023 年）】

人口は下流部に集中し、年々増加中

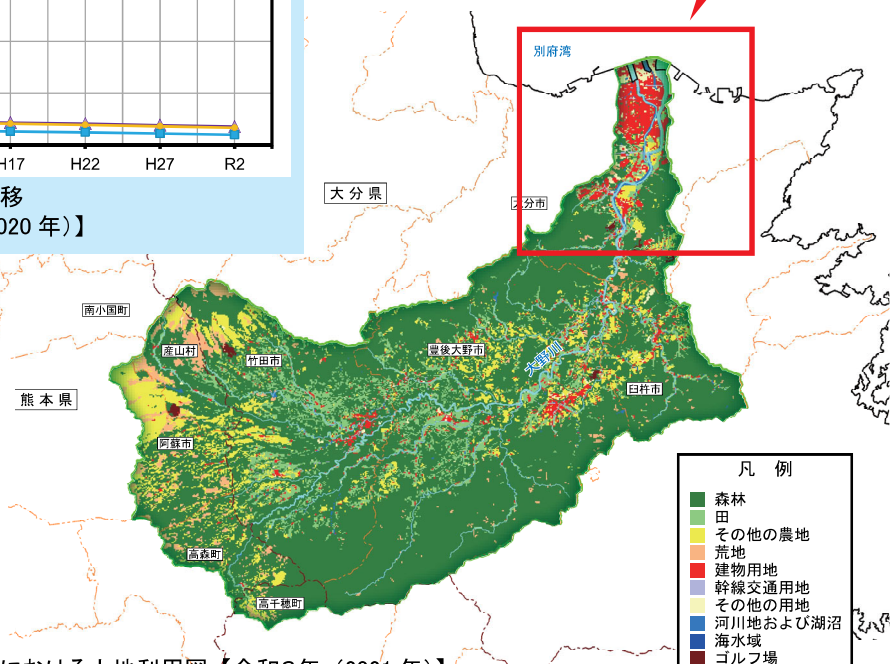
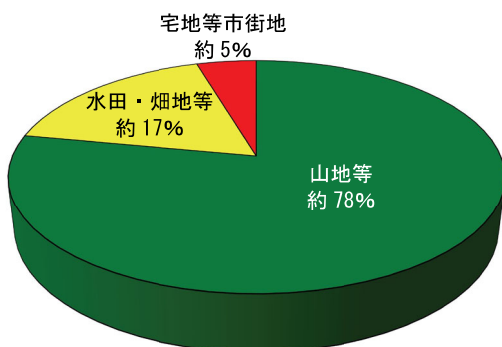
流域の土地利用は、山地が全体の約 8 割となっており、宅地等は下流部の大分市に集中しています。



大野川流域の主な市の人口の推移

【昭和50年（1975年）～令和2年（2020年）】

人口・資産は
最下流の大分市に集中



大野川流域における土地利用図【令和3年（2021年）】

過去の水害と主な治水対策

◆これまでの洪水被害

大野川流域の年平均降水量は約 2,100mm で、全国平均約 1,700mm の約 1.2 倍であり、主要洪水の要因の多くは台風によるものです。

大野川の主な洪水としては、昭和 18 年（1943 年）9 月洪水をはじめ、近年では、平成 2 年（1990 年）7 月洪水、平成 5 年（1993 年）9 月洪水、平成 17 年（2005 年）9 月洪水、平成 29 年（2017 年）9 月洪水等が挙げられます。

大野川の主な洪水

洪水年	洪水要因	流量※1 (m ³ /s)	被害状況 ※2
昭和18年9月18日～21日洪水	台風第26号	9,033 (犬飼)	死者・行方不明者:不明 家屋被害:29,996戸 (大分県全域)
平成2年7月2日洪水	梅雨前線	7,149	死者・行方不明者:5名 家屋全壊:65戸 浸水家屋:854戸
平成5年9月2～3日洪水	台風第13号	9,331	死者・行方不明者:5名 家屋半壊:17戸 浸水家屋:534戸
平成17年9月4～6日洪水	台風第14号	8,962	死者・行方不明者:なし 浸水家屋:616戸
平成29年9月16～17日洪水	台風第18号	9,981	死者:1名 家屋半壊:7戸 床上浸水:93棟 床下浸水:194棟

※1：基準地点白滝橋の実績流量

※2：被害状況については昭和 18 年 9 月 18 日～21 日洪水は大分県全域、その他の洪水については流域内の値



平成 2 年（1990 年）7 月洪水（大分市毛井）



平成 29 年（2017 年）9 月洪水（大分市上戸次）

◆さまざまな治水対策

大野川における治水対策は、昭和 4 年から国の直轄事業として着手し、昭和年代には堤防整備を主体とした河川改修を、平成年代には河道掘削や河床低下対策等の整備を実施してきました。

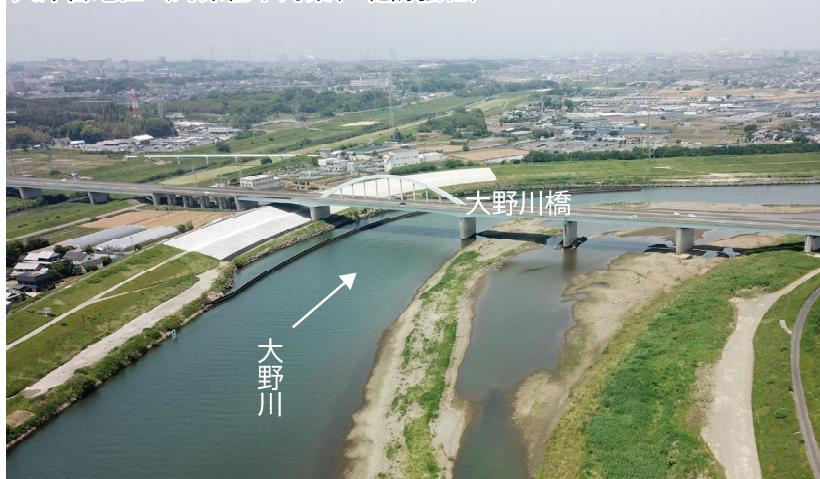
近年では、平成 5 年 9 月洪水、平成 17 年 9 月洪水、平成 29 年 9 月洪水で度重なる浸水被害を受けた利光地区の堤防整備や、内水対策として樋門整備を実施しています。

現在においては、河床低下が著しい大津留地区を対象に、河床低下対策を進めています。



樋門整備

大津留地区（河床低下対策、堤防強化）



堤防整備

大野川 8k400 付近

樹林帯整備



利光地区（堤防）



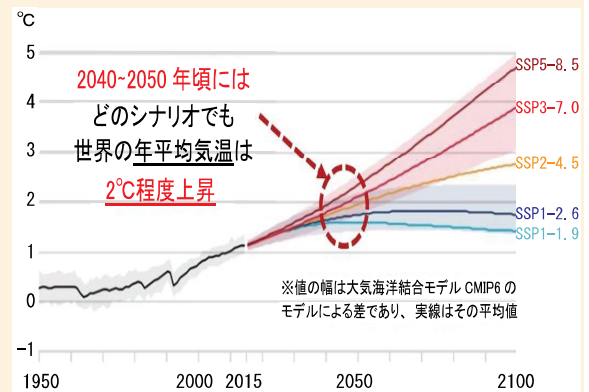
◆治水に関する計画の沿革

大野川水系の治水の沿革

年号	計画の変遷	内 容
昭和4年	直轄事業に着手	基準地点：犬飼 計画高水流量：5,000m ³ /s
昭和21年	計画高水流量の改定	基準地点：犬飼 計画高水流量：7,500m ³ /s そのうち乙津川に1,500m ³ /s分流
昭和41年7月	工事実施基本計画の策定	従来の改修計画を踏襲
昭和49年3月	工事実施基本計画の改定	基準地点：白滝橋 基本高水のピーク流量：11,000m ³ /s 計画高水流量：9,500m ³ /s
平成11年12月	河川整備基本方針の策定	基準地点：白滝橋 基本高水のピーク流量：11,000m ³ /s 計画高水流量：9,500m ³ /s
平成12年11月	河川整備計画の策定	基準地点：白滝橋 整備計画目標流量：9,500m ³ /s
平成26年12月	河川整備計画の変更	基準地点：白滝橋 整備計画目標流量：9,500m ³ /s ※河口部の大規模地震・津波への対策、堤防の浸透・侵食対策の追加
令和5年12月	河川整備基本方針の変更	基準地点：白滝橋 基本高水のピーク流量：13,500m ³ /s 計画高水流量：11,100m ³ /s

◆気候変動を踏まえた治水計画の見直し

- 気候変動における大雨等の災害の激甚化・頻発化が危惧されています。気温が2℃上昇した場合を想定した気候変動のシナリオでは、2040年頃には降水量が約1.1倍、流量が約1.2倍、洪水発生頻度が約2倍になると試算されており、河川整備についても気候変動を踏まえた治水安全度向上が必要です。
- 令和5年に気候変動を踏まえた河川整備基本方針を改定しており、今回河川整備計画も整備目標等の変更を行います。

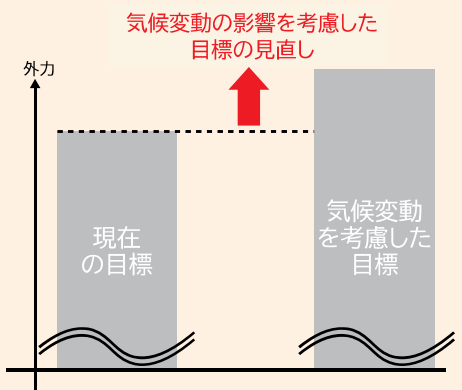


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模) (1/100 等)
2℃上昇相当	約 1.1 倍

降雨量が約 1.1 倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約 1.2 倍	約 2 倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模（1/100 ～ 1/200）の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



■洪水対策の新たな目標

- 新たに変更した河川整備基本方針で定めた目標に向けて、段階的かつ着実に整備を進めます。
- 観測史上最大となる平成29年（2017年）9月洪水の実績流量を安全に流下させることができますようになります。

大野川本川における整備目標の基準地点流量

基準地点	目標流量	洪水調節量	河道流量
白滝橋	10,500m ³ /s	0m ³ /s	10,500m ³ /s

大野川の川づくりの内容

◆河川の整備（ハード対策）

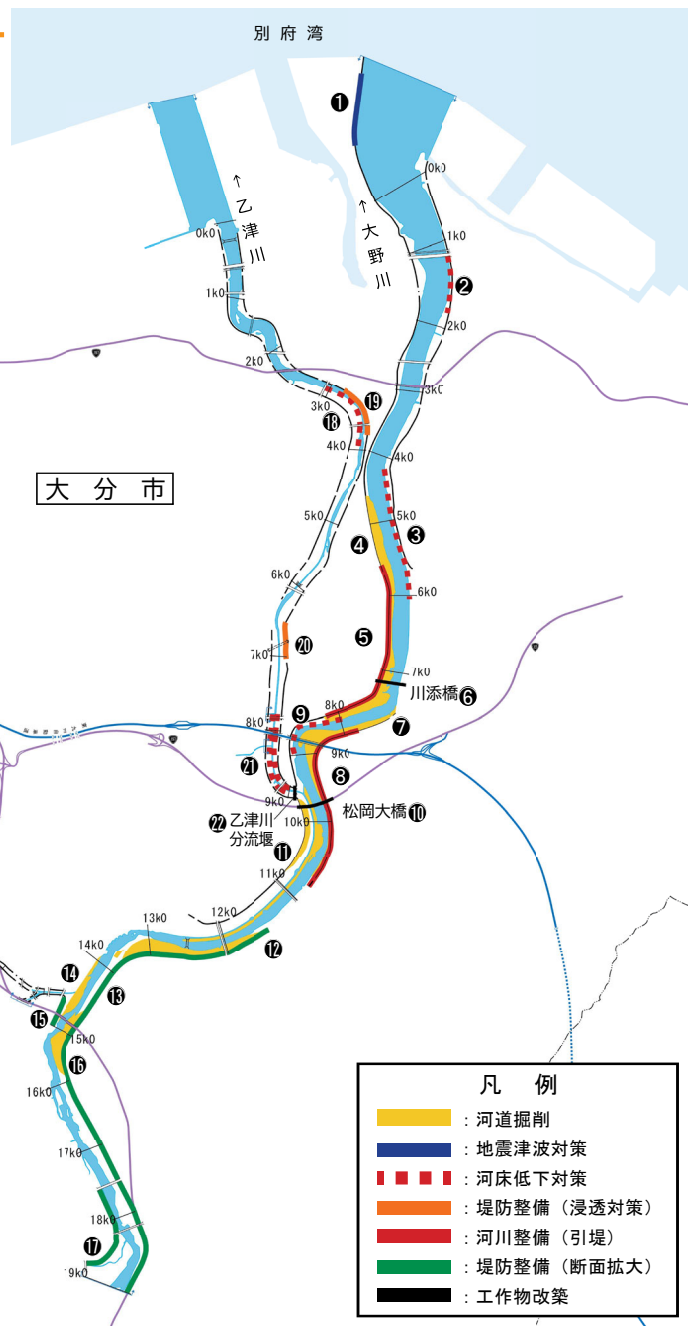
■洪水被害を減らすための対策

- 洪水等による災害の発生を防止するためのハード対策を推進します。
- 家屋の浸水被害につながる「堤防の決壊」、「越水」等が想定される区間に対し、水位を低下させるための河道掘削や河川整備（引堤）を実施します。
- 河川改修にあたり、環境の保全・創出に努めます。

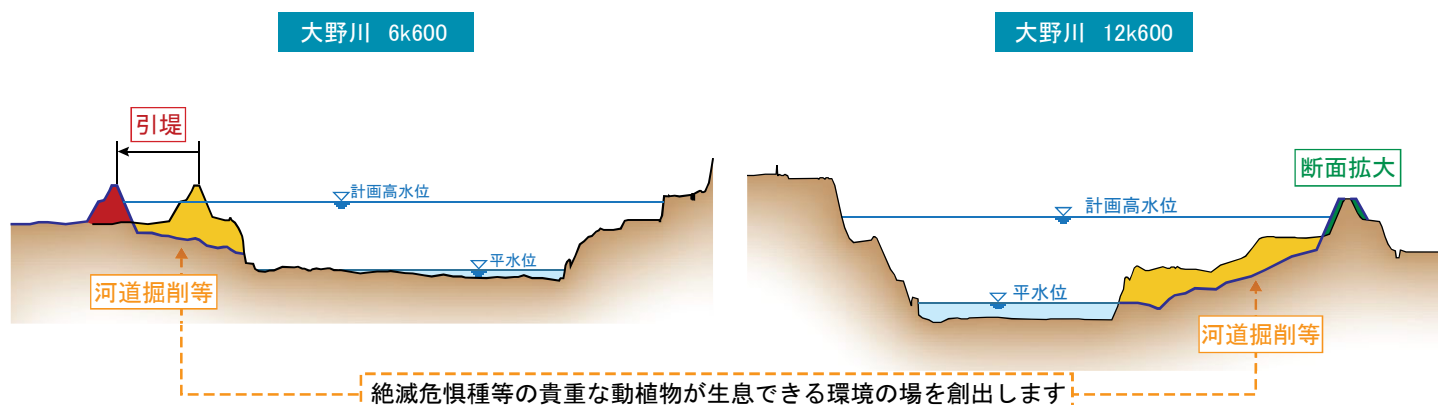
河道整備（流下能力向上等）の施工の場所

No	河川名	地区名	施工場所	整備内容
1	大野川	一ノ州地区	大分市一ノ洲地先 左岸1k400付近	地震・津波対策
2	大野川	志村地区	大分市志村地先 右岸1k000～1k600付近	河床低下対策
3	大野川	種具地区	大分市種具地先 右岸4k200～6k000付近	河床低下対策
4	大野川	丸亀地区	大分市丸亀地先 左岸4k800～8k200付近	河道掘削・樹木伐採
5	大野川	関園地区	大分市関園地先 左岸5k800～8k800付近	河川整備（引堤）
6	大野川	丸亀地区	川添橋 7k150付近	横断工作物改築
7	大野川	宮河内地区	大分市宮河内地先 右岸7k600～10k600付近	河道掘削・樹木伐採
8	大野川	宮河内地区	大分市宮河内地先 右岸7k800～10k600付近	河川整備（引堤）
9	大野川	大津留地区	大分市大津留地先 左岸8k200～9k000付近	河床低下対策
10	大野川	宮河内地区	松岡大橋 9k750付近	横断工作物改築
11	大野川	松岡地区	大分市松岡地先 左岸9k400～12k400付近	河道掘削・樹木伐採
12	大野川	下戸次地区	大分市下戸次地先 右岸11k600～13k400付近	河道掘削・樹木伐採
13	大野川	下戸次地区	大分市下戸次地先 右岸11k400～19k200付近	堤防整備（断面拡大）
14	大野川	下判田地区	大分市下判田地先 左岸13k800～15k000付近	河道掘削・樹木伐採
15	大野川	下判田地区	大分市下判田地先 左岸14k400付近	堤防整備（断面拡大）
16	大野川	下戸次地区	大分市下戸次地先 右岸14k600～15k200付近	河道掘削・樹木伐採
17	大野川	竹中地区	大分市竹中地先 左岸18k400～18k700付近	堤防整備（断面拡大）
18	乙津川	乙津・皆春地区	大分市乙津・皆春地先 別保橋～4k000付近	河床低下対策
19	乙津川	国宗地区	右岸3k200～3k600付近	堤防整備（浸透対策）
20	乙津川	鶴瀬地区	大分市鶴瀬地先 右岸6k700～7k100付近	堤防整備（浸透対策）
21	乙津川	毛井地区	大分市毛井地先 8k000～乙津川分流堰付近	河床低下対策
22	乙津川	毛井地区	乙津川分流堰 9k500付近	

※施工区間は、概ねの範囲を示したもので、データの精査等により変更が生じる可能性があります。



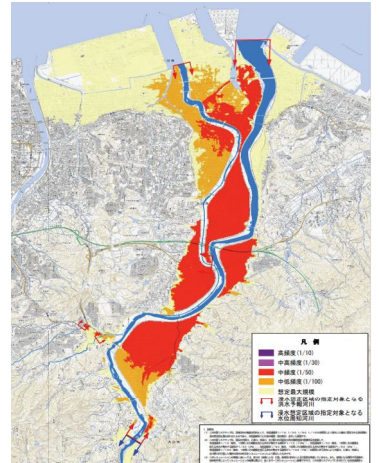
洪水対策のイメージ横断面図



◆防災情報などの整備（ソフト対策）

防災情報を分かりやすく伝えるための対策

- 従来から用いられてきた防災無線・サイレン等の地域特性に応じた情報伝達手段についても、関係自治体と連携して有効活用し、また水位標識なども分かりやすくします。
- 光ファイバーネットワークの構築、IT 関連施設の整備等を行い、防災対策に必要な水位や雨量等の情報、監視カメラの画像情報など迅速かつ正確に提供する取り組みに努めます。
- また、河川の状況を分かりやすく伝えるために、水害リスクラインなどより高度な情報を提供できるよう努めます。



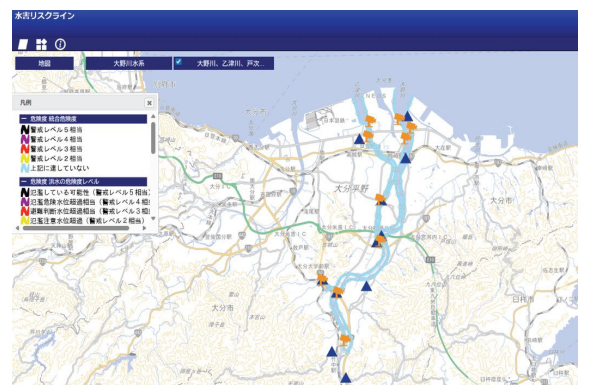
水害リスクマップ（現況河道）



水位危険度レベル表示



大分川・大野川防災情報提供システム



水害リスクライン（防災情報高度化の事例）

防災体制強化のための対策

洪水予報・水防警報の通知

川の水位が上昇するおそれがある場合等には水位予測を行い、洪水予報を気象台と共同で発表します。また、関係機関が行う水防活動が的確に実施され災害の未然防止が図れるよう、水防警報を迅速に通知します。

洪水時の見回りなど

堤防等の河川管理施設等の異常を早期に発見し、迅速な水防活動や、緊急復旧工事が実施できるよう、河川巡視を行います。

日頃からの防災教育や防災訓練

水防活動に万全を期すために、平常時から出水期前の合同巡視、情報伝達訓練、防災訓練等を行います。



◀水防訓練の状況

的確な水防活動のための準備や情報交換など

洪水時の水防活動が円滑に行われるよう、水防資機材などの確保・充実を図ります。

関係機関で構成する「大分川・大野川洪水予報－水防連絡会」を通じて、情報連絡体制の確立や重要水防箇所の周知等を今後も継続していきます。



▲大分川・大野川洪水予報－水防連絡会

流域内の県、市、自衛隊、地方気象台、国土交通省などによって構成。大野川における水防体制の強化に向け、水防に関する情報交換を積極的に行っています。

◆河川水の利用

日頃からの水量・水質の管理

河川環境の保全や既得用水の取水の安定化、流水の正常な機能を維持するため、関係機関等と連携を図りながら水量・水質の監視を行います。

渇水の被害を減らすための対策

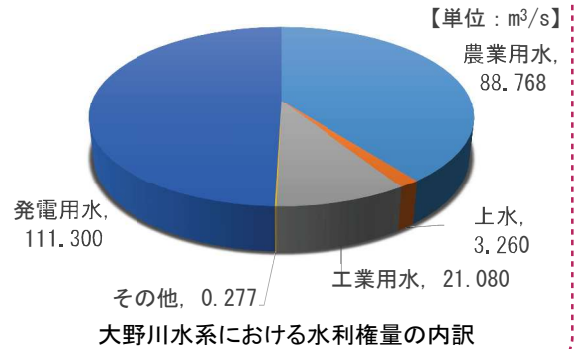
異常な渇水等により河川流量が減少し、渇水対策が必要となった場合は、関係機関と連携して被害の軽減に努めます。

水質事故時の適切な対応や事故防止訓練など

水質事故時には、関係機関への情報伝達、適切な箇所でのオイルフェンス・吸着マットなどの設置等により、被害の拡大防止を図ります。

また、円滑な対応を図るべく、「大分川・大野川水質汚濁防止連絡協議会」と連携しながら事故管理体制の強化や水質事故訓練等を実施します。

- 大野川では、軸丸発電所をはじめとする14箇所の発電所により河川水が利用されています。さらに工業用水として大分臨海工業地帯に、水道用水として大分市、竹田市等に供給が行われています。



◆水質の保全

- 今後も引き続き水質の状況を把握・公表するとともに協議会等を通じて関係機関等と調整し、地域住民へ水質保全に関する啓発活動を行います。
- 地域の意識向上や啓発活動については、水生生物の種類によって簡易的に水質の状態を調べる水生生物調査をはじめ、出前講座や、「大分川・大野川水質汚濁防止連絡協議会」等を活用し、実施します。

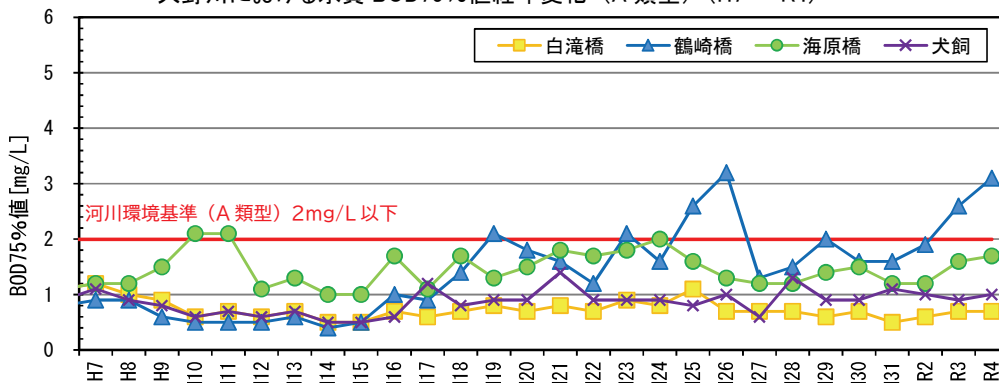


大分川・大野川水質汚濁防止連絡協議会



水生生物調査状況

大野川における水質 BOD75%値経年変化（A 類型）（H7 ～ R4）



- 大野川水系の水質は概ね良好です。一部、少雨や植物性プランクトンの発生等の影響で環境基準より高い値がありますが、今後も経過観察、対策に努めます。

※BOD（生物学的酸素要求量）とは水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素の量で表され、有機性の汚濁を表す指標として用いられます。

75%値とは、1年間月1回（計12回）の観測データのうち、良い方から並べて9番目（75%目）の値であり、環境基準の達成状況をみる際の指標になります。

大野川の川づくりの内容

◆自然環境の保全

「河川環境の整備と保全」の充実を図るため、河川内の河道掘削や樹木伐採に関して有識者から助言を受ける「大分川・大野川河道管理環境検討委員会」を開催し、その意見を踏まえて環境に配慮した河川整備や維持管理を実施しています。

大分川・大野川河道管理環境検討委員会 ▶



■多様な動植物の生活環境の整備

- 大野川の河川環境の現状と課題を踏まえ、河川環境の整備と保全・創出に関する定量的な目標（干潟・ヨシ原、砂礫河原等）などを設定し、動植物の良好な生息・生育・繁殖の場の保全・創出を図ります。

淡水区間

大野川の淡水区間においては、絶滅危惧種であるミナミメダカ等の魚類や、コガタノゲンゴロウ等の昆虫類といった希少な動植物が生息・繁殖しています。多様な生物のハビタットとなる瀬・淵～水辺～高水敷～山付き部が一带となった環境を保全します。

ミナミメダカ



ヨシ



大南大橋付近（大野川16k0付近）



川添橋付近（大野川7k0付近）



感潮区間

大野川の感潮区間においては、ヒモハゼやハクセンシオマネキ等の重要な魚類、底生動物が生息・繁殖する干潟や、オオキリヨシ等の鳥類の生息・休息場となるヨシ原が存在します。これらの感潮域特有の環境を保全します。

干潟とヨシ



ハクセンシオマネキ



乙津川

派川乙津川においては、フクドなどの塩生植物や、絶滅危惧種であるマサゴハゼ等の魚類といった希少な動植物が生息・生育・繁殖しています。渡り鳥の中継地となる干潟やヨシ原の他、砂州、ワンドなど感潮域特有の環境を保全します。

フクド



マサゴハゼ



中島橋付近（乙津川4k0付近）



- 河川水辺の国勢調査や定期的な縦横断測量等を含め、河川工事や外来種対策等が実施された後に河川環境のモニタリングを行い、整備や対策による効果等を確認します。
- 在来種の生態系への影響が懸念される外来種については、特定外来生物の駆除や啓発活動等に加え、必要に応じて外来種対応を講じます。
- 身近な自然空間である河川への関心を高め、現在の大野川の河川環境を実感できるよう、水生生物調査等の体験学習を継続的にを行います。



水生生物調査（体験学習）

人と河川の豊かなふれあいの場の整備

河川空間の利活用

- 河川の利用については、堤防や高水敷を通学路や散策路等として利用する人が多く、お花見やアユ釣りのほか、地域のイベントにも利用されています。
- 河川空間が適正に利用・保全されるよう、定期的・継続的に河川空間利用実態調査を行います。
- 関係機関等と連携して、人と川がふれあうための空間整備を行います。



桜づつみの散策



大野川合戦まつり

河川景観を守るための取り組み

- 大野川は流域内に数多くの自然公園を有し、上中流部は多くの景勝地を形成しており、下流部は自然の営みによって形成された瀬・淵・河畔林等の豊かな河川景観を呈しています。



祖母傾国定公園



滞迫峡



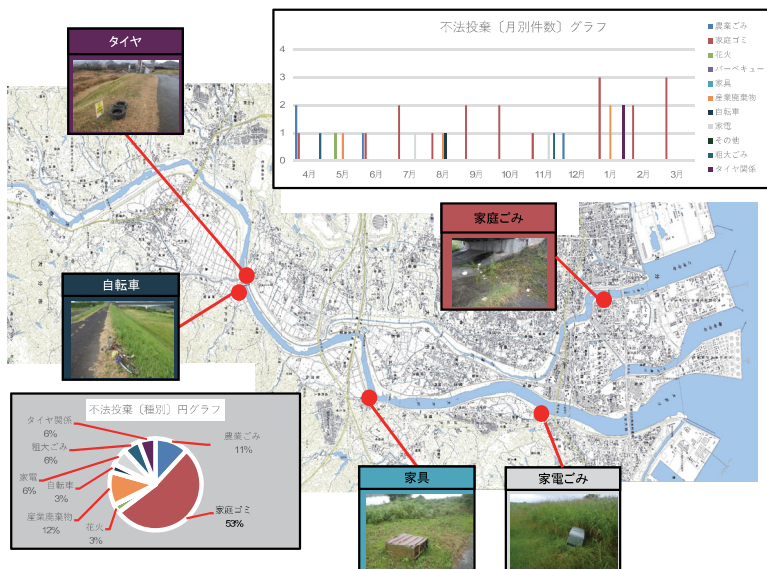
川上溪谷



下流部の河川景観

- 一方で、景観面はもちろん、河川環境を損ない、河川利用の妨げにもなるゴミの不法投棄が絶えず、環境上好ましくない状況が続いています。
- 今後も大野川が織りなす良好な河川景観の保全に努め、また、不法投棄への対応として、河川巡視による未然防止、関係機関との連携対応、マナー向上に向けた啓発活動等に努めます。

2024大野川水系ゴミマップ



大野川水系ゴミマップ（2024 年度版）



不法投棄の状況

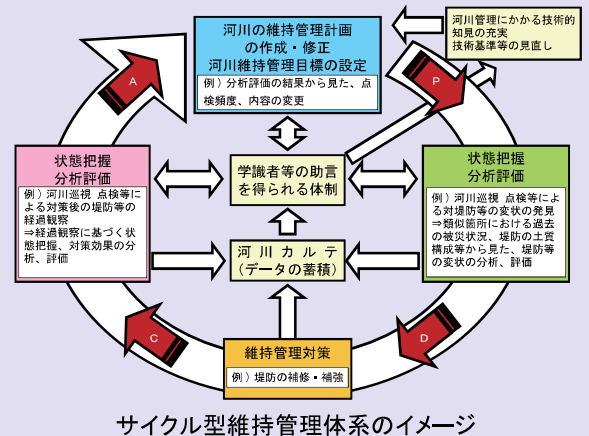
大野川の川づくりの内容

◆維持管理

堤防・施設のメンテナンス

- 堤防等の状態を点検・把握するため、除草等を継続し、必要に応じて補修等を実施します。
- コンクリート構造物の継目の開き等の確認や、機械機器・電気設備の点検等により、状況に応じた補修等を計画的に実施します。
- より確実な操作の実施に向け、施設の更なる高度化・効率化、操作員への情報提供等に取り組みます。洪水時に水門等を適正に操作するため、操作人の教育・操作訓練を行います。
- 集中豪雨等による急激な水位上昇や施設規模を上回る洪水等に備え、樋門・樋管の無動力化、遠隔化等を検討し、確実な操作ができるよう努めます。

- 河川巡視、点検による状態把握、維持管理対策を長期間にわたり繰り返し、それらの一連の作業の中で得られた知見を分析・評価して、河川維持管理計画あるいは実施内容に反映していくというPDCAサイクル体系を構築し継続します。



堤防除草状況



堤防法面補修



水閘門の現地一斉点検

河道のメンテナンス

- 河川巡視、定期的な測量等により河道の状況を把握し、必要に応じて堆積土砂の撤去や河道内樹木の伐開等を行います。



伐採前



伐採後

河道内樹木管理

河川協力団体

大野川水系では「乙津水辺の楽校運営協議会」、大分川水系では「津留地区ふるさとづくり運動推進協議会」「ななせ交流会」が河川協力団体の指定を受け、地域に根ざした河川の維持、環境保全、啓発等の活動を実施しています。



◆大野川における総合的な取り組み

関係機関、地域住民との連携

- 流域内において様々な活動を行っている各団体の活動支援を行うとともに、大野川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に、安全で多数の地域住民が参加できるよう必要となる情報を積極的に提供する等支援を行います。
- 今後の川づくりにあたっては、行政と住民、学識経験者が一体となり、コミュニケーションを充実させることによって、技術面や予算面で可能なものから順に人々が川に期待している想いを一つひとつ具体化します。

河川情報の発信と共有

- 河川環境や河川利用に関する情報等を掲載したパンフレット等を作成するとともにインターネット等により幅広くPR活動を行い、情報の共有化を行います。
- 「大野川らしさ」を活かした河川整備を進めるため、Webサイトや広報誌を利用して意見交換の場づくりを図るなど、関係機関や地域住民等との双方向コミュニケーションを推進していきます。

地域の将来を担う人材の育成など

- 川は貴重な自然体験の場であり、水生生物調査等の機会を通じて身近な自然である大野川に親しみを感じられるよう、環境学習を積極的に支援します。
- 自然体験活動の指導者や水害等を経験した方の知識や知恵等を伝承していく人材育成に取り組めます。



河川協力団体と連携した広報活動



出前講座による講義の様子



流域の小学生を対象にした水生生物調査

洪水調節施設を有効活用する取り組み

- 大野川では、過去、人命や財産に大きな被害を及ぼす水害が何度となく発生しており、こうした被害の軽減を図るため、関係機関と連携し、治水・利水の両面から貯水容量の最大限の活用、弾力的な貯水池の運用管理、事前放流等、効果的な取り組みを一層推進します。

流域内の主要ダム



野津ダム



稲葉ダム



大蘇ダム

大野川水系河川整備計画（変更原案）について あなたのご意見をお聞かせください

【アンケートのご案内】

流域にお住いの皆さまの大野川に対する想いやご意見を参考にして、大野川水系河川整備計画の検討を進めていきたいと考えております。ご意見・ご要望などをご記入の上、最寄りのパンフレットの配布場所に設置してある「意見箱」にご投函ください。

たくさんのご意見をお待ちしています。

意見箱での意見募集

意見箱を下記の場所に設置していますので、皆様のご意見をアンケート用紙にご記入の上、投函ください。

意見箱の設置場所

- 大分河川国道事務所
- 大分河川国道事務所 大野川出張所
- 大分県庁 土木建築部河川課
- 大分県 大分土木事務所
- 大分市役所 河川・みなと振興課
- 大分市役所 鶴崎支所
- 大分市役所 大南支所
- 大分市役所 大在支所
- 大分市役所 明野支所

インターネットでの意見募集

大分河川国道事務所の Web サイト内のアンケートフォームよりご意見ください。

大分河川国道事務所 Web サイト ▶ <http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>



アンケートフォームはこちらからアクセスできます



住民説明会の開催

大野川水系沿川において住民説明会を開催します。

開催場所

- 下流地区：令和 7 年 10 月 16 日（木） 18：00 ～ （開催場所）大分市役所 鶴崎支所
- 上流地区：令和 7 年 10 月 14 日（火） 18：00 ～ （開催場所）大南公民館

お問い合わせ先



国土交通省 大分河川国道事務所 流域治水課

〒870-0820 大分市西大道 1 丁目 1 番 71 号

TEL：097-546-1474 FAX：097-546-1830